

令和 7 年度 県立勝田工業高等学校自己評価表

目指す学校像	教育活動全体を通して、心身ともに健康で豊かな人間性を備えた生徒の育成を図る。また、ものづくり教育を通して、グローバルな視点を持ち対応できる創造力を備え、地域や産業社会に誇りと愛着を持ち貢献できる生徒、自らの将来像を明確にイメージし、その実現のために具体的に行動できる生徒の育成を目指す。			
三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	①心身ともに健康で豊かな人間性を備えた生徒。②グローバルな視点を持ち対応できる創造力を備え、地域や産業社会に誇りと愛着を持ち貢献できる生徒。③自らの将来像を明確にイメージし、その実現のために具体的に行動できる生徒。		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	①地域との連携を図り、活力に満ちた工業高校づくりを目指すとともに、自ら課題を見つけ、自ら行動できる態度の育成。②基礎・基本の確実な定着を図るとともに、自らの興味・関心・進路希望による科目選択学習を充実させ、個性を伸ばす教育の実践。③安全教育を実践し、安全で安心できる学校生活を実現するとともに、他人を思いやる豊かな心の育成。④ スポーツを奨励し、体力の向上と不屈の精神の錬磨に努める。		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	①ものづくりや工業的な分野に興味を持ち、深く探究しようという強い意欲のある生徒。②部活動を頑張り、3年間活動し心身を鍛錬し人間性をたかめられる生徒。③自分の進路実現を目指し、日々努力する生徒。④学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、学校行事、生徒会活動、部活動などに積極的に取り組む意欲のある生徒。		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
＜成果＞ ・令和6年度本校総合工学科卒業生約 70%が就職（内定率 100%）、30%が進学している。 大学進学者が 33 人。 ・生徒の問題行動による指導件数が少ない。 頭髪服装指導における協力体制は維持されている。 ・学校行事における生徒会活動は活発であり、部活動加入率も 50%程であり、運動部・文化部共に活発に活動している。関東大会や全国大会に多数出場した。 ＜課題＞ ・基礎学力の定着と授業や学習への取組の充実及び個々の生徒の専門性を高める指導体制の確立及び定着化が必要である。 ・体系的なキャリア教育を推進し、生徒一人一人が希望する進路の実現を目指す指導の更なる		個々の希望を実現するキャリア教育の推進	①地元企業等との連携事業や企業体験学習を拡大・充実させ、確かな学力(生きる力)を身に付けさせ主体的な進路選択ができるようにする。 ②大学等との連携事業、大学の出前授業、自校での進学補講等の充実を図り、希望する大学への合格を目指す。 ③段階を追ったキャリア教育を行うため、キャリア・パスポートの活用を通し勤労観や職業観の育成を図り、就職希望者の内定率 100%進学希望者の合格率 100%達成を目指す。	B
		個性を生かしながら伸ばす充実した教育の実現	④単位制総合工学科として適切な教育課程の研究と実践に努め、授業規律の確立と基礎学力の定着に努めながら、個々の生徒の専門性の深化を目指す。 ⑤基礎資格の合格率アップを目指すとともに、電気工事士や技能検定等の高度な資格取得への挑戦者と合格者を増加させ、ジュニアマイスター取得 30 名を目指す。 ⑥言語活動の充実を通して、コミュニケーション能力を高め、グローバル化した社会に対応できる人材を育成する。	A
		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進	⑦主体的・対話的で深い学びの授業を目指し研究授業や、相互授業参観による授業改善を行う。 ⑧ICT を利用したわかる授業を目指した授業改善を行う。 ⑨生徒による授業アンケートで、「授業満足度」80%を目指す。	B

別紙様式 2 (高)

充実が必要である。 ・登下校の際や校外における問題行動の未然防止に努め、生徒理解を踏まえた規範意識を育む指導を実践していく事が必要である。 ・資格指導・ものづくり講習会は活発に行われた。 ・広報活動は積極的に行ったが、令和7年度入学者選抜において一般入学の志願倍率 0.96 倍、第2次募集を実施し定員を満たした。		根幹となる豊かな心の育成と安全教育の推進	⑩基本的生活習慣を確立させ、規範意識の醸成と問題行動の未然防止を図る。 ⑪施設設備の点検と安全教育を充実させ、学校事故撲滅を目指す。 ⑫ホームルーム活動の活性化と、学校教育全体を通じた道徳教育の推進及び、ボランティア活動の充実を図り、いじめ問題等の未然防止に努める。		B		
		部活動・特別活動の更なる活性化と主体性の育成	⑬部活動への積極的参加を奨励するとともに、生徒の自主的活動の活性化と学校行事への主体的な参加を促す。 ⑭特別活動の充実を図り、学校行事等を通して自発的・自治的な態度の育成に努める。				
		学校内外への充実した広報活動の推進	⑮開かれた学校づくりを目指し、中学校への出前授業や公開授業を実施するとともに、学校のホームページを通して地域や保護者・中学校等へ情報を発信することで、本校の特長をアピールする。 ⑯PTA 行事等の保護者への周知を図り、参加を促すことにより PTA 活動の活性化を図る。				
		教職員相互に業務内容の改善と平準化に取り組み、時間外勤務縮減に向けた意識改革と行動改革の推進	⑰各校務分掌ごとに業務内容の重複を点検と整理に努め、教職員の在校時間の適切把握と健康管理を推進する。 ⑱業務内容改善のために、指導の質の維持・向上を図りつつ継承、整理・統合、精選等を検討する。 ⑲授業準備や自己研鑽の時間を確保し、より質の高い授業や個に応じた指導を行うため、地域や保護者に理解を得ながら、学校や 教員が担う業務を整理し、ICT の有効活用により、学校の実態に即した情報の共有化や会議の効率化等に努める。 ⑳茨城県の部活動運営方針及び本校の部活動等に係る活動方針により、実施環境を構築する。				
評価項目		具体的目標	具体的方策		評価		次年度（学期）への主な課題
教科	国語	基礎学力の向上を図る。	社会人として必要な国語常識を身に付けさせるために、問題集やテキスト等を積極的に活用する。また、資格取得に向けた課外や、進路に合わせた小論文指導などの個別指導を行う。	④⑩	A	・漢字の小テストや語彙のプリントで基礎学力の定着をはかるとともに、文章作成能力の向上のため作文指導にも定期的に取り組んだ。 ・授業内や課題提出において効果的に I C T を活用し、授業の充実と改善に継続して取り組むことが課題である。	
			授業でのルール及びマナーを身に付けさせるとともに、ノート等を定期的に点検し、授業に対する真摯な取り組みを習慣づけさせる。	④⑩	A		
			言語活動を積極的に取り入れ、判断力や表現力、互いを理解する力を育成する。	⑥⑦	B		
		授業の改善を目指す。	指導方法や内容について話し合い、必要に応じて I C T 機器を活用するなど、授業の充実と改善に継続して取り組む。	⑥⑧	B		

別紙様式 2 (高)

	地歴	基礎学力の向上を図る。	学習ノートを積極的に活用し、定期的に評価することで学習意欲を高める。	④	A	B	・ Google Form を活用した小テストをさらに実施し、効果的な学習の機会を増やしたい。
		指導方法の工夫と研究を行う。	視聴覚教材や史資料を積極的に活用し、生徒の資料活用能力を培い理解を促進する。	④	B		
			ICT 機器を積極的に活用し、生徒の自主的な活動を促す。	④⑧	B		
	公民	基礎学力の向上を図る。	学習ノートを積極的に活用し、定期的に評価することで学習意欲を高める。	④	B	B	・ 資料活用について教員間での情報共有を活発化させ、授業における視聴覚資料の効果を高めていきたい。
		指導方法の工夫と研究を行う。	視聴覚教材や史資料を積極的に活用し、生徒の資料活用能力を培い理解を促進する。	④	B		
	数学	基礎学力の向上を図る。	基礎学力が定着していない者や成績不振者に対して、学力向上を助けるために補習を行う。	④	B	B	・ 基礎学力を定着させることが厳しい生徒が一定数いる。教科教員は協力して個別指導や補講などの対応をしている。来年度も継続していきたい ・ 数学検定の受験希望者が年々増えている。来年度も引き続き計画・実施したい
			定期的な課題の提出等を利用し、学習の理解度を確認する。	④	A		
			授業中の机間指導を通して、学習の遅れがちな生徒を把握して補足説明を随時行う。	④	B		
		生徒希望に応じた学力の向上を図る。	より深い内容の学習を希望する生徒のために、課外や検定試験を実施する。	②⑤	A		
	理科	基礎学力の向上を図る。	基本事項の確認だけでなく、生徒のレベルや進度に合わせた授業プリントや小テストを作成し、基礎学力の向上を図る。また、担当者間でもプリントの内容に関して話し合う。	④⑦	A	B	・ 日常生活との関連から理科を学ぶ意味を考えさせ、主体的に学ぶ態度を身につけさせたい。 ・ 電子黒板、クロムブックなど ICT 機器を生徒自身が使い、生徒のレベルに合わせた学びを取り入れたい。
		理科に対する興味・関心を深めさせる。	演示実験なども取り入れて、日常生活と科学との関連を意識した授業をすることで、理科に対しての興味・関心を深める。また、それらを通して主体的に学ぶ態度を身につけさせる。	④⑦	B		
		生徒が理解しやすい授業への改善に努める。	電子黒板・クロムブックを使用し、映像で見せて理解を深める。また、机間巡視や小テストの実施により、生徒のレベルを把握し、生徒が理解しやすい授業への改善に努める。	④⑧	B		
	体育	自己の基礎体力の向上を図る 資質・能力を育成する。	体力テストでの目標設定を明確にし、意欲的に取り組ませる。 運動量をできる限り確保し体力の向上を図る。	④	A	B	・ 体力テストの A 判定の人数を増やすために、基礎体力の向上を目指した活動計画を立てることが重要である。 ・ 個人の健康への意識を高め
		運動の実践による運動の多様性・体力の必要性を理解する。	球技において種目を選択させ、生徒達で練習計画を立てて競技を進める能力を身に付けさせる。競技特性を理解し、取り組みを通して協力する態度を養う。	④	B		

別紙様式 2 (高)

		生涯を通じて運動に親しんでいく能力や体力を育てる。	球技において種目を選択させ、生徒達で練習計画を立てて競技を進める能力を身に付けさせる。競技特性を理解し、取り組みを通して協力する態度を養う。マラソンの授業を通じて体力の向上と運動を習慣化できるようにする。	⑦ ⑧	B		るために、ICT を効果的に用いて課題解決型 学習を進めることを目指した い。
芸術	基礎的な力の定着を図りながら、個性を伸ばす教育を目指す。	形や色を考える基礎的なデザインの授業や、巧緻性を育む絵画や彫刻の授業、今後使用頻度が上がるであろうデジタルデザインの授業など、工業人として役にたつような授業を意識する。また、その授業アンケートでの満足度 80% 以上を目指す。	④ ⑨	B	A		・絵画、彫刻、デザイン等幅広い分野で基礎的な知識・技能が付くよう意識した。 ・次年度は、I C Tをより活用した授業づくりの工夫をし、わかりやすく、伝わりやすい授業にしていきたい。
	道具の基本的な使い方を学ぶ中で、安全な環境整備に努める。	木彫での彫刻刀、絵画での絵の具・筆等の使い方をはじめ、デジタルツールとしての chromebook 等多岐にわたる道具の基本的な使い方の定着を図る。また、後片付け等安心安全な学習環境の整備を意識する。	⑩ ⑪	A			
英語	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図る態度を身につけさせ、基礎的な能力を身につけさせる。	毎時の授業を通して、円滑なコミュニケーションのとれる生徒を育てる。分かりやすい授業を工夫し、基礎的な文法力と語彙力を身につけさせる。リスニング検定などを有効に活用し、実践的な英語力を身につけさせる。	③ ④⑦ ④	B	B		・ICT を効果的に活用することで、より生徒が理解しやすい授業展開を行ってきたい。 ・ALT が週に 2 回来校するので更にコミュニケーション力をつけられるように、力を入れていきたい。
	異文化理解を深める。	ALT との Team Teaching や英語による授業を展開することにより、英語に多く触れさせる。	⑥	A			
家庭	自分の生き方に関わる内容を学習することで、常に「今」より充実向上した生活が図れるような能力と実践力を育む。	生涯発達の視点で、家族や家庭生活のあり方を理解させ、よりよい家庭を築いていくことの重要性を認識させる。	④⑨	B	B		・ICT を活用した授業展開や課題連絡を心掛けたが、課題提出が徹底できなかったことが課題である。 ・将来を見据えて考えられるよう具体的事例を提示しているが、さらなる内容の精選が必要である。
		家族の生活が健康で安全に営むことが出来るよう、高等学校家庭科技術検定や ICT を活用しながら衣・食・住・保育・福祉・環境・消費生活に必要な知識と技術を習得させる。	④⑧	A			
		ホームプロジェクトを通して自分の生活を見つめなおし、家庭生活の改善向上のため主体的解決をはかる実践力を身に付けさせる。	④⑥⑧	B			
総合 工学	教科指導の充実を図り、基礎・基本の定着と専門性の向上に努める。	各科目の指導内容について長期的な計画を立て、わかりやすい授業・実習に心がけ、専門教科としての基礎的重要項目を理解させる。	④	A	A		・明確な指標を持った連携事業やその過程で得られる成果などを意識して行った。 ・対外事業(出前授業、マイスター事業)を立案した計画通りに遂行することができた。
		実習における技術・技能の習得に努める。地元企業や大学等との連携事業を実施しキャリア教育の充実を図る。	① ④	B			
	安全教育の徹底と施設・設備の維持管理に努める。	施設設備の整理整頓と安全点検に努めるとともに、カリキュラムに対応した設備の充実を図る	②⑤⑫	A			

別紙様式 2 (高)

		各種資格取得を奨励する。	各種資格取得指導において中長期的な計画に基づいた丁寧な指導により合格率の向上を図る。	② ⑤	A		・生徒の実態に応じた授業や資格指導など改善、受検を奨励する資格の精選を行う。
教務		新教育課程の円滑な実施。	教育課程検討委員会を中心に、各校務分掌・教科・年次と連携を図り、授業・評価方法等の改善と円滑な教育課程の実施を推進する。教育課程委員会を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の実施・推進に努める。	③	A	A	中学生対象の説明会や体験実習・部活動体験の実施時期や内容について検討する必要がある。校務支援システムを利用した成績処理・要録作成等において、誤入力やミスが発生しないように周知・徹底が課題である。
		学校 PR・広報活動の充実。	広報委員会を中心に各分掌・各教科と連携し、中学生対象の学校説明会、部活動体験、中学校訪問等を計画的に実施する。また、学校パンフレットや学校ホームページ等の広報資料の充実を図る。	⑦	B		
		校務支援システムの活用と情報管理部との連携協力。	情報管理部との連携協力体制を強化し、校務支援システムの運用整備、改善を図る。特に、出欠登録・成績処理・要録作成業務等を円滑に行えるよう、連携を図る。	⑮⑯	A		
情報管理		各種管理システム運用の推進。	校務運営に関して ICT 機器を活用した効率化、自動化を推進。教員の校務負担減につながるようなシステムの提案と運用。校務支援システムのマニュアル化と関係各所との連携を密にすることで、円滑な学級経営につながるようシステムの運用を図る。	⑰⑱⑲	B	B	・校務支援システムへの迅速な対応、学校ホームページを活用した積極的な情報発信について、さらなる検討が必要である。 ・電子黒板の不具合が多く、授業に支障をきたしている。 ・生徒用タブレット端末の貸し出し、返却の的確化について検討が必要である。 ・旧 OS の校務用端末更新について、早急に対応が必要である。
		個人情報取扱規程の整備。	個人情報の管理の徹底に努め、情報管理における規範意識の向上に努める。事案の共有やセキュリティの強化など、職員全体で個人情報管理における情報共有を図る環境の醸成。	⑪	A		
		インターネットを活用した広報活動の推進。	ホームページを活用した情報発信、各種メディアや情報媒体を活用し多方面に向けての情報発信を積極的に行う。また、生徒確保のための広報以外にも近隣の小中学校教職員向けの情報発信を行い、本校の実態や地域としての産業を支える工業高校を再認識してもらう。	⑮	B		
		ICT 機器の積極的な授業および校務での活用推進	授業における ICT 機器の使用を推進することで、双方向で対話的な授業を展開し授業の理解度の向上をはかる。ICT 機器を活用し主体的・対話的で深い学びの授業の展開。	⑦⑧⑨	B		
庶務	PTA 総会等各種行事の連絡を、PTA 役員に対し確実にを行い、連携を密にする		PTA 総会等各種行事の連絡をできるだけ早い時期に確実に PTA 役員に対して行い、各種行事等への参加率を高める。	⑯	A	A	・PTA 役員の確保については難しく、ボランティア役員の導入や年度末の追加募集で何とか確保したい。
			PTA の広報紙を通して、学校の教育活動や PTA 活動を工夫し PR する。	⑯	A		
学習指導		基礎学力の向上と定着を図る。併せて進学希望者に対し学力の向上を目指す。	更なる学力の向上につなげるために、1 年次に基礎学力を重視した指導をする。学年と協力し、ICT を用いての基礎学力の定着を図る。進学希望者について進学課外・出前授業への参加を通し、進学に対しての意欲を高めるとともに、学習にたいする意識を強める。	②④	B	B	多くの生徒は、資格取得に頑張っている。ジュニアマイスター顕彰制度では、特別表彰 2 名、ゴールド 8 名の表彰があり、昨年度

別紙様式 2 (高)

	選択制を活かして、学習意欲の向上と専門性の深化を目指す。	卒業後の進路を生徒が考える際、進路につながる科目の選択を考えさせるようにし、進路に関わる学習に対しての意識を高めるとともに、保護者との連携を密にする。	③	B		以上の結果を出すことができた。 基礎学力向上については、生徒の自主性を踏まえた指導ができたものと考えられる。 系の選択において、バランスが取れる系選択の方策を考える必要がある。 大学出前授業も、計画通りに実施することができた。
	資格について啓蒙し、推進する事を目指す。	進路との連携やジュニアマイスター顕彰制度を利用することで生徒の資格取得への意欲を高める。	④	A		
特活指導	学校内外への広報活動の推進する。	学校のホームページを通して地域や保護者・中学校等へ情報を発信し、本校の生徒会活動や部活動の特長をアピールする。	⑮	B	B	・生徒と連携を取りながら行事を進められるようにしていく必要がある。 ・行事の見直し。
	ホームルーム活動を活性化する。	年間計画に基づき各ホームルームの活性化を図るとともに一層具体的な活動が行えるように努める。また、各分掌から出されるテーマを LHR に反映し効率的な HR 活動を展開する。	⑫	B		
	部活動への積極的参加を促す。	各部活動資料を活用し、実演などを取り入れた PR を行う。また、部活動参加率が全生徒の 65%以上になるように働きかけ、参加率の増加と意識の高揚を図る。	⑬⑭⑳	B		
生徒指導	基本的な生活習慣と規範意識の確立を図る。	基本的な授業態度の育成、学習習慣の確立、遅刻の減少を図る。(遅刻カードの活用)	⑩⑫	B	B	・生徒の規範意識を促すための企画・講話や学校生活内の生活で起こる事柄を利用して社会性を育てる生徒支援強化が必要である。 ・学校と家庭の両者間で、報告・連絡・相談がしやすい環境作りを継続して進めていく。
		登校指導・昼休みの巡視を 1 日 2 名で通年実施する。また定期考査期間中に生徒の帰宅状況を確認するために校外巡視を実施する。	⑩⑪	B		
		HR における交通安全教育、交通講話(外部講師)の実施することや、自転車点検、生徒による街頭指導を行うことにより交通マナーやルールを守る心を育て、命の大切さを呼びかける。	⑩⑪⑫	A		
進路指導	望ましい職業観・勤労観を育成する。	学年・他公務分掌と連携し計画的な進路指導を 1 年次より行い、自己の能力・適正を見出し生かす職業観を育成する。 インターンシップや進路セミナー等を通じて、職業観・勤労観の育成に努める。	①②③	B	A	・就職は求人状況により好調であったが、依然としてミスマッチや生徒の準備不足等があり、指導内容の模索が必要である。 ・保護者向けの情報発信を充実させる必要性を感じる。
	生徒一人ひとりの進路希望に応じた進路指導の充実を図る。	企業への求人要請を進めるとともに、それぞれの企業が求める人材の的確な把握に努め、就職希望者の内定率 100%を目指す。 進学希望者が学部学科を適切に選択できるよう大学・専門学校との情報交換を進める。	①③ ②	A		

別紙様式 2 (高)

	進路情報の共有と提供を図り 選択の幅を広げる。 地域との連携を深め、地域が求 める人材育成を図る。	3 年次と連携し、保護者会や三者面談で進路に関する情報を積極的に提供す る。 ひたちなか市や学校評議委員会等との連携を図り、企業が求める人材を把握 し育成することにより就職時のミスマッチの解消や早期離職者の防止に努め る。	①②③ ①	B		
保健指導	危険防止と環境整備のために 清掃活動や校内安全点検を継 続実施する。	環境整備委員を中心に、全学年一斉清掃・環境整備に取り組む。 安全点検表を利用して清掃分担ごとに月一回の点検を行い、改善すべき箇所 がある場合には迅速に対応する。	⑪	A	A	・ごみの分別は概ねできているが、今後もチェックを続け 不分別ゼロにしていきたい。 ・校内の安全・衛生と、生徒・ 職員の健康な生活を維持する ための取り組みを引き続き行 う。
	生命尊重に関する教育を実施 する。	勝工安全の日に、全校生徒を対象として、生命尊重に対する講話を実施する。 1 年次を対象に、専門講師を迎えて性教育・救命救急(AED)講習を実施する。	⑫	A		
	病気やけがを予防するための 対策の充実を図る。	病気やけがについて、正しい知識と現状に合った情報伝達を心掛ける。 感染症対策を継続する。	⑩	A		
図書	情報提供サービスの向上と充 実を図る。	レファレンスサービス、リクエスト予約サービスの充実に努める。	②④⑤	A	B	・ミニ図書の継続。 ・全校生徒に向け、クラスル ーム等の活用をする。 ・委員会活動を活性化し各ク ラスからのリクエストを受付 する。 ・次回の芸術祭実施について の検討。 ・担当職員が開館時間に常駐 できるように計画する。 ・HR の年間計画に利用予定 を計画する。
		生徒の知的好奇心と興味を抱かせる書籍の選定と購入に努める。	④⑧	A		
	図書委員会活動と行事の充実 を図る。	図書委員会活動を通じて図書館とクラスのパイプ役としての意識を高める。	⑫⑭	A		
		読書会や研修会、芸術鑑賞会等の行事の充実に努める。	⑭	B		
	施設の有効利用と環境整備の 充実を図る。	自学自習の場としての図書館の利用を促進する。	①②③	B		
		利用簿等の活用により、授業・LHR 等で視聴覚室の利用促進を図る。	④⑫	B		
1 年次	基礎的・基本的な知識・技術・ 技能を身に付けさせる。	真摯な態度で授業に臨ませる。提出物の期限を守らせる。資格・検定試験に 意欲的に取り組ませる。家庭学習を習慣化する。	③④⑤	B	B	・概ね授業に臨む態度は育成 できたが、提出物等の提出や 取り組みに課題が残る生徒も いた。 ・ルールやマナーを守れない 生徒に対して積極的に学年と して指導に取り組んだ。
	基本的生活習慣を確立させ健 全な高校生活を送らせる。	時間を守り、自主的に挨拶・返事ができるようにする。身近なルールやマナ ーを守らせ、安全で安心な高校生活を送らせる。	⑩⑫	A		
	協調性や他人を思いやる豊か な心を育てる。	積極的に学校行事に参加させ、協調性や思いやりを身に付けさせるとともに、 集団生活の中で責任ある行動がとれるようにする。自分の存在意義を認識さ せる。部活動に積極的に参加させる。	⑥⑦⑪	B		
2 年次	健康管理に心がけ、何事にも全 力で取り組むことのできる意 欲と体力を育成する。	自己管理力を養う。高校生活における身体的・心理的な安全を最優先させる。 そのため保護者との連携を密にとるよう努める。	⑩	B	B	生徒はおおむね、挨拶や時間 を守るなど基本的生活習慣の 確立に努めることができた。
		規則正しい生活ができるように高校生としての自覚を持たせ、規範意識の向	⑪⑫			

別紙様式 2 (高)

		上に努める。また、社会的信頼の大切さを認識させる。毎日の清掃と教室の整理整頓を徹底させる。				
	将来を見通し、高校生活の中で得られる知識・技術・技能の習得に努めるとともに、豊かな社会性を身に付けさせる。	インターンシップ・工業現場実習・企業見学等を通して職業意識を持たせ、進路決定の準備を始めさせる。 ICT を活用した分かる授業を目指し、進路希望に応じた学習を推し進めることを通じて、基礎力の充実を図る。また、資格取得を通じて知識・技術・技能のより高い習得を目指す。	①③	A		一部の生徒は心身の調子を崩し、欠課時数を増やしたが、丁寧できめ細かい指導を重ね改善の方向に向かっている。学習習慣が十分に身についていない生徒が多く、スタディーサプリの活用や、タブレットの効果的な利用を促していきたい。
	基本的生活習慣を確立させ健全な高校生活を送らせる。	時間を守り、自主的に挨拶・返事ができるようにする。 身近なルールやマナーを守らせ、安全で安心な高校生活を送らせる。	⑩	B		
3 年次	一人一人の適性を踏まえた上で、具体的な進路目標を現実のものとしていく。	進路指導部と連携し、社会の現状を把握するとともに、適性検査結果や面談での助言等をもとに、生徒に自分自身の適性を冷静に判断させ、その能力・適性に応じた進路指導を推し進める。	②③	A	A	○調査書や履歴書など進路に関する事務的な部分は、進路指導部・情報管理部と密な連携をとる。 ○進路決定後の生活の崩れや学習意欲の減退を防ぐため、適宜面談や声掛け、集会。保護者等と連携を図り粘り強い支援・指導に努めていく必要がある。今年度はジュニアマイスター顕彰を意欲的に取り組めた。 ○変革期の中における生徒指導の在り方について。生徒指導部(県教委)からの情報の共有と確認。
		保護者と密な連携を取りながら、学校生活の安全を最優先させ、きめ細かい助言をしていく。	⑮⑯	A		
		授業に真剣に取り組むことにより、知識・技術・技能のさらなる習得に努めさせる。 また、ICT を活用した分かる授業を目指し、進路希望に応じた学習を推し進めることを通じて基礎力の充実を図る。	④			
	ひとりの人間としての社会常識を身に付けさせることはもちろんのこと、他人を思いやる心を育てる。また必要に応じて我慢強さと忍耐力を発揮できるようなたくましさを育成する。	校則や公衆道徳を尊重し、進んで守ることにより、社会規範意識の向上を図る。	⑩	A		
		挨拶を励行し、他人への思いやりを忘れない心をさらに育てる。	⑫	A		
学校運営	豊かな心の教育の充実を図る。	学校行事や特別活動での細やかな生徒指導を通して、基本的生活習慣を確立し、倫理観や規範意識を高めるとともに、問題行動の未然防止に努める。	⑩ ⑫	B	B	○様々な活動を通じて対話をとおして心の教育を充実させることが重要○情報教育は計画通り働きかけられたが、国際理解教育の機会は少なかった。○小学校への出前授業や地域のイベントへの参加で地域交流を図れた○地元企業と商工会議所、大学との連携が図れた。
	情報教育と国際理解教育の推進を図る。	授業や学校行事を通じて情報教育と国際理解教育を積極的に推進する。	④ ⑥	B		
	地域の中学校との連携を図る。	地域の中学校と出前授業や交流事業など積極的な広報活動を通じて中学校との連携を図る。	⑮	B		
	地元企業や大学等との連携を推進する。	地元企業や地元大学等との連携を更に推進し、進路指導・キャリア教育の充実を図る。	①② ③	B		

別紙様式 2 (高)

※ 評価基準 : A:十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない